



ICT 海外ボランティア会会報 第 112 号

2024 年 2 月 24 日 (土)

URL: <https://ictov.jimdo.com>

EML: info.ictov@network.email.ne.jp

目次

◆ 特別寄稿

[対話型生成 AI とセキュリティ](#)

当会顧問 [東京大学名誉教授
吉田 眞](#)

◆ 特別寄稿

[岩槻日記\(26\)](#)

当会特別顧問 [石井 孝](#)

◆ 海外グラフィティ

[警女\(ごぜ\)のことなど
新春浅草歌舞伎を堪能して](#)

[日本ベンダーネット社長 エッセイスト 田上 智](#)

◆ 海外便り

[やどかり族の中国俳柳紀行序章\(7\)](#)

[元 JICA シニア海外ボランティア 北垣 勝之](#)

◆ メッセージリレー(5)

◆ 第 22 回 ICT 海外情報ウェブサロン模様

[事務局](#)

◆ ICT 海外情報ウェブサロン開催方法等アンケートのお願い(下記サイト)

<https://forms.gle/bBSYGefLPPVSEX97>



対話型生成 AI とセキュリティ

当会顧問
東京大学名誉教授
吉田 眞

はじめに

この 1-2 年で、ChatGPT(*)などの対話型生成 AI（以下、生成 AI）が急速に発展しており、関連の報道を見聞きしない日は無いほどである。昨年までは、取りあえず使ってみる状況であったが、実践に入っていく段階になってきた。生成 AI は、翻訳や文書の下書き案、コード生成、など多くの分野のタスクで利用が始まっている。一方で、社会、個人への悪影響が指摘されており、利用拡大に従って種々の課題も明らかになってきた。



(*) 「GPT」は、言語モデル「Generative Pre-training Transformer」の略

生成 AI は、その原理から誤りや嘘（フェイク）のデータを意図的に学習させて回答に悪影響を与えることは勿論、意図的でなくとも、学習時と最新データの時間差や過去の古いデータによって誤った結果を出力することがある。

攻撃は最大の防御といわれるが、セキュリティも攻撃側が常に先行し防御側が後追いになる。生成 AI の場合も同様である。特にその急な拡大が Covid19 や国際紛争の発生と重なったことから、偽情報の拡散や詐欺に使われる多くの例が報じられた。これらへの防御策として、ChatGPT には悪意によるコンテンツや違法なコンテンツの生成を防ぐ様々な制限が設けられている。しかしながら、この制限を回避することは可能であり、実際、様々な例が見られる。

このような背景により、小生が関係しているセキュリティ分野の非営利一般社団法人では、昨年 11 月の秋のイベントのテーマを「ChatGPT が問いかける、クラウドセキュリティの新たなビジョン」として開催した。【1】

生成 AI 技術の詳細については、他の書籍や解説をご参照いただくとして、本稿では、その課題、主にセキュリティ(情報通信だけでなく、社会・経済・国家の安全を含む)、プライバシーの観点からの課題について紹介する。なお、生成 AI の主要な種類としては、画像生成 AI、テキスト生成 AI、動画生成 AI、音声生成 AI があるが、本稿ではテキスト生成を主対象としている。

1. 生成 AI のざくつとした原理（たとえば【2】）

生成 AI とは、大規模言語モデル（Large Language Model: LLM）を活用することにより、自然な対話ができるようになった AI の総称である。LLM とは、大量データによって入力された単語列に対してそれに続く単語列の確率を学習して、その確率が最も高い繋がりに従って回答を生成する機械学習モデルのことである。

このような生成方法により、生成 AI は、言葉・単語自体の意味内容には全く関係無く、単なる記号としてその間の結びつきの出現頻度の高さによって文章を生成する。文章・言語データを大量に学習することにより確率の精度は高まるが、ルールや知識によって処理しているわけではない。数学や論理、事実とその関係、知識そのものは取り込まれておらず、文脈も理解している訳ではない。

これが生成 AI の本質的な限界である。このため”嘘をつく”こともあるし、存在しない話を答えてくることもある（幻覚；ハルシネーション）。当然ながら、思考、信念、感性、意識は持っていないので、人間のように”会話しながら考えること”はできず、逆説や皮肉なども判らない。出力結果は意味内容から人間が判断せねばならない。

さらに、読み込んだ時点以後のデータはないので、最新情報が出力されないという問題もある。なお、データ自体にも、例えば歴史の記録書では編纂時の為政者に望ましくない情報は除かれていることなどの偏りの問題がある。このようなことから、検索エンジン、計算アプリ、知識データベースなどと組み合わせて補完・修正する手法が必要であり、種々試みられている。

具体的には、ChatGPT では以下の 3 段階で処理を行っている。

- ・事前学習：膨大なテキストデータを収集する。このデータによって文章中の単語に続く単語を予測する
- ・指示チューニング：タスクの能力を高めるためのパラメータを調整する
- ・人間のフィードバックによる強化学習：誤情報や不適切な表現を抑制し、人間の選好を言語モデルに学習させる

2. ChatGPT を含む大規模生成 AI モデル（Large Generative AI Models, LGAIMs）の課題

上記の原理によって、生成 AI には、得意・不得意がある。

- ・得意なこと：文章の要約・翻訳、文章案の作成。例えば、挨拶状、マーケティングなどの定型文書の原案作成。ただし、内容の正確さ、表現の適切さなどは人間が判断する必要がある。
- ・不得意なこと：個別の事実やデータの提示、個人的・特定の問題に対する判断、創造物の評価。

例えば、「日本の首相は誰」との問いには、正しい応答となる確率が低い。これは「現在の」と限定しても、どの時代の資料でも「現在の」という言葉が入っている可能性があるからである。

次節で紹介する文献等で、以下のリスクが挙げられている。

- ・意図的でなくとも、利用者が気付かない過誤、過失などが生じる可能性。特に、急激な普及・流行と容易性・利便性から、無条件に信用する利用者が少なくない。
- ・攻撃者などによる意図的な悪用。

さらに、以下の点も指摘されている。

- ・内部動作や仕組みの説明可能性、透明性の確保が困難で、規制、監視も難しい。
- ・有害なデータやコンテンツの投稿監視（コンテンツモデレーション、content moderation、不適切なものの監視・削除すること）を、誰がどのように、どの段階で行われるべきか、議論が進んでいない。

悪影響による混乱、損害等の対象として、個々の個人と社会全体がある。

- ・個人・個別：人権侵害、権利侵害、詐欺等による、精神的・経済的損害
 - ・社会全体：
 - －誤った世論形成・誘導による混乱（選挙への干渉など）
 - －効率化の裏返しとして、生成 AI で代替される労働者増、失業率の増大
- 即ち、直接の攻撃等と、技術の普及・利用による（意図していない、あるいは想定外の）コスト増、損失がある。

3. 言語モデルが人間社会に及ぼす悪影響のリスク

言語モデルのリスクは、ChatGPT の開発以前から指摘されており、以下に簡単に紹介する。【2】【3】以下の①－⑤は、セキュリティ、プライバシーに直接・間接に関わる問題である。

- ① 差別・排除・有害（discrimination, exclusion and toxicity）の生成、助長
学習データそのもののバイアス要因による、
 - ・社会的なステレオタイプと不公平な差別
 - ・排他的な標準規範（規範から外れるグループを排除）
 - ・（暴力や攻撃を誘発する）有害な表現：憎悪，不敬、人格攻撃、侮辱，脅し，性的表現，屈辱表現など
 - ・特定の言語（情報が少ない少数民族の言語など）での性能低下
- ② 情報の危険性（information hazards）
意図せずとも以下の情報が学習する大量データに含まれる恐れと、その情報がどの程度、どのような形で出力されるのかが不明。これで生じる精神的及び物理的損害。
 - ・個人情報や記憶、推測、漏洩することによるプライバシーの侵害
 - ・機密情報の漏洩、推測によるリスク（個人、企業ビジネス）
- ③ 誤情報による悪影響（misinformation harms）
 - ・誤情報、誤解を生む情報の拡散
 - ・低品質な情報提示による物的損害（例えば、薬、法律関係など）
 - ・倫理に反する行動、違法な行動の教唆
- ④ 悪用（malicious uses）
害を及ぼす目的での意図的な利用（風評、悪評、誘導などの犯罪や、悪意のあるコード生成など）
 - ・誤情報の低コストで、より効果的な生成
 - ・スパムや詐欺メールの生成
 - ・サイバー攻撃、武器や悪用目的のコード生成
 - ・違法な監視や検閲
- ⑤ 人間・機械間の相互作用における悪影響（human-computer interaction harms）
 - ・擬人化による過度の依存や信頼
 - ・個人情報を取得するための方法として利用
 - ・暗に性別・民族性を含んだ有害なステレオタイプの増長

⑥ 社会や環境への悪影響 (automation, access and environmental harms)

- ・システムの運用に必要なエネルギーや環境負荷 (の発生・増加)
- ・人間の仕事の自動化による不平等、失業の増加
- ・創造的・経済活動の破壊 (著作権侵害や創作者が被る不利益など)
- ・運用・活用能力 (ハード、ソフト、スキル) の有無による不平等

以上に加えて、最近指摘されている問題として以下がある。

・モデル崩壊 (model collapse) 【4】

生成 AI が作成したコンテンツが他の AI モデルの学習に使われることによって、生成する出力の質がひたすら低下していくことを指す。生成 AI によって生成されるコンテンツは急激に増加していくので、この質の低下 (汚染) も急激に進む恐れがあり、想定外の悪影響を及ぼす可能性がある。さらには、人間にはこのことが分らないという問題がある。

・市場の寡占

大量データを集める LLM は、規模が大きいほど増々大量のデータを集めるようになるので、一部の寡占・独占を生む恐れがある。大規模 IT 企業にデータが集積される問題と同種の問題である。

・無断学習

著作権のある著作物を無断で学習することにより、生成結果が権利侵害をする。(上記の⑥)

4. EU の規則案

以上の状況に対して、EU では AI 規制案 (AI Act) を (LLM についてだけでなく広く) 検討しており、参考にその内容を若干紹介する。【5】 【6】

EU の規則案は、GDPR (EU 一般データ保護規則) での個人情報等、他の欧州規制と同様に、欧州市場に関係する EU 域外企業が提供する AI も対象となり、違反があれば全世界売上を基にして制裁金が課されることになる。施行は 2024 年以降の見通しであるが、その規則が国際的な基準となる可能性がある。日本の関係企業等の活動も対象となるので、日本の規則の検討もこれを見据えて急ぐ必要がある。

(1) EU の一般原則 【6】

EU 規則案には、欧州連合基本条約が基礎にあり、「人権、自律性、自由が守られるために、AI が倫理的に適用される防御策を必要とする」、との考えが根底にある。具体的には「全ての AI システムに適用される一般原則」に以下が記されている。(*)

- ・人間による営み・人力、と監視 (human agency and oversight)
- ・技術的な頑健性と安全性 (technical robustness and safety)
- ・プライバシーとデータガバナンス (privacy and data governance)
- ・透明性 (transparency)
- ・多様性、無差別、公平性 (diversity, non-discrimination and fairness)
- ・社会と環境に対する健全性 (social and environmental well-being)

これらは、基本的に本稿での関心であるセキュリティ、プライバシーに直接・間接に
関係する要素である。

(2) AI のリスク分類【5】

規則案では、事業者に対する厳格な義務を規定した上で、AI のイノベーションを支援
し、AI の健全な発展を目指すとしている。リスクの程度により、「容認できないリスク」、
「高リスク」、「限定的リスク」、「極小のリスク」の4段階のリスクに基づく対処法
を採っており、以下の構成となっている。表1にまとめを示す。

1. 一部の AI システムと利用の禁止（容認できないリスク）
2. 高リスク AI システムに対する要求事項と事業者に対する義務
3. 特定の AI システムに対する透明性に関する EU 共通ルール
4. 市場モニタリング、市場監視、ガバナンスに関する規則
5. イノベーション支援

表1 AI のリスク分類と対処

分類	対処	内容	条項
容認できない リスク unacceptable risk	原則、使用禁止	人々の安全、生活、権利に対する明らかな脅威 があるもの ・サブリミナル、年齢・精神的・身体的障害等 による脆弱性の利用、公的機関及びこれに代わ って行うソーシャルスコアリング（社会信用の ランキング）、遠隔実時間生体認証、等	Article5
高リスク high-risk	適合性評価等 （第三者認証、 自主適合確認、 等）	人々の安全や基本的権利に悪影響を及ぼす可能 性があるもの ・機械、医療機器など対象製品の安全性、特定 分野のシステム（遠隔生体認証、重要インフラ、 教育・職業訓練、等）	Article6, Annex II , III
限定的リスク limited risk	透明性の確保 Transparency obligations	以下のような場合、AI システムを利用してい ることを使用者に明示する義務 ・人間との対話、感情認知・生体情報による分 類化、存在する人間・物に似せた生成物（ディ ープフェイク等）	Article52
極小のリスク minimal risk	行動規範の立案 奨励	特定の義務はないが、高リスク AI への対処を適 用するよう奨励	Article69

終わりに

AI を選挙に用いる試みとして、今年2月には米国で偽電話が報じられ、FCC は誤情報
拡散や選挙妨害を防ぐために「詐欺を目的とした AI 生成の電話音声は違法」との決議を
行った。世界経済フォーラムは「AI が生成した広告や誤った情報が選挙を混乱させるこ
とが今年最大の世界的リスクになる」と警告した。【7】

個人のセキュリティ、プライバシーに関わるリスクとともに、このような社会・世界の将来を左右しかねないリスクが懸念される。効果的な対策を早急に実装する必要があるが、内部動作や仕組みの透明性確保が困難で、規制・監視も、これを誰がどのように行うかも難しい。

レイ・カーツワイル氏が 2005 年に「シンギュラリティ（人工知能が人類の知能を超える技術的特異点）が 2045 年に起きる」と述べてから 20 年が経ち、現在、2030 年という説もある。人類にとって AI のリスクが環境問題とは異なるのは、人間の精神活動そのものに関わり、内部動作や仕組みが不透明で、規制・監視も難しいことである。

将来はますます予想困難であり、人間の制御を超えるのか、今後とも注視していかねばならない。

【 1 】 CSA Japan Congress 2023 :

https://www.cloudsecurityalliance.jp/site/?page_id=30158

講演資料 : https://www.cloudsecurityalliance.jp/site/?page_id=30724

【 2 】 岡崎直観 : 「大規模言語モデルの驚異と脅威」情報処理 Vol.64 No.9 (Sept. 2023)

【 3 】 Weidinger,L.etal.: Ethical and Social Risks of Harm from Language Models (2021), arXiv:2112.04359. <https://arxiv.org/pdf/2112.04359.pdf>

【 4 】 <https://cmad.nikkeibp.co.jp/?4 -- 802451 -- 196674 -- 22>

<https://www.fastcompany.com/90998360/grok-openai-model-collapse>

【 5 】 男澤英貴 : 「AI の急速な進化と新たな欧州 AI 法規制」情報処理 Vol.64 No.12 pp.19-24 (Dec. 2023)

【 6 】 PWC : 「欧州「AI 規則案」の解説」

<https://www.pwc.com/jp/ja/knowledge/column/awareness-cyber-security/generative-ai-regulation03.html>

【 7 】 Forbes : <https://forbesjapan.com/articles/detail/68709>

以上

岩槻日記(26)

当会特別顧問 石井 孝

「ご命日を間近にしての追懐」

一月二十六日は NTT 初代社長真藤(恒)氏のご命日である。真藤さんは 2003 年 1 月 26 日に 92 歳で永眠された。

民営化 NTT に貢献された真藤さんのご業績は数知れずあるが、私が特に注目するのは次の点である。

最近、漸くソフトウェア内製化の重要性が叫ばれ始めているが、真藤さんは、社長就任早々いち早く、自社の商売道具である通信システムのソフトウェア内製化(自社開発)の重要性を看破し、これを実行・実現されたのである。

真藤さんは、当時、電子交換機がシステムダウンすると NTT 社員では直すことが出来ず、メーカーの開発担当者が現地へ赴き修理する現状を観て、大事な商売道具が故障しても自分で直せないとは何たることか、ハードは兎も角としても、機能(交換)を実現するソフトは自分で創り、システムダウンは自己で対処せよと厳命されたのである。

しかし、後で語られたところによると、これに関しては、更に遠大な構想をお持ちになっていたのである。

当時、研究所ではメモリーチップの高集積化に成果を挙げていたが、この部隊をメモリーではなく、プロセッサチップの開発に切り替えて、そこに乗せる各種の処理ソフトを交換機ソフトで勉強を積んだ内製部隊に当たらせようとお考えになったようである。

未だマイクロソフトもインテルの姿かたちもない当時、自社内に謂わばマイクロソフトとインテルを併存させようとする壮大な構想をお持ちになって居たのだ。

さすが、世界に冠たる真藤船型のタンカーを設計・製造し、世界制覇を遂げた方である。21 世紀はソフトウェアの世界であることを見抜いておられたのである。

電子交換機を含む通信に関連するソフトウェアの内製化は、NTT が新しい世紀に残るためのファーストステップとお考えになって居たのである。

後日談になるが、ソフト内製部隊は民営化直後の創業から 10 年を経て二千名を超す大部隊に成長し、(開発)組織体制的にも整い、通信システムに関わるすべてのソフトウェア内製化が行えるようになった。

これで真藤プランのファーストステップは一応完成したのである。

しかしながら、真藤さんがリクルート事件に巻き込まれ NTT を去ると、この折角出来上がった内製部隊に対し「内製は悪だ」などと言い出す幹部(エリート)も出てきて、いつの間にか、内製部隊は事実上消え去ってしまったのである。

リクルート事件などが無く、真藤さんが熱い想いでリーダーシップをとり続ける事が出来たなら、当時の後にひかない電電の野武士たちは、たゆむことなく意地にかけても真藤プランのセカンドステップ、更にはサードステップへと順次取り組みを進めて行ったであろう。

ファーストステップの時は文字通りゼロからのスタートであったが、今度は経験を積んだプロ集団になって居るのでそこそこの成果は十分に挙げえた筈である。

歴史に IF(イフ)は無いが、もしそうであったなら、NTT は今、どんな姿になっているであろうかと想うと、残念無念、諦め切れない。

「夢破れて夢を知り」では情けない。今からでも決して遅くない、真藤プランを 21 世



紀流に練り直して、着実に実行可能なプラン(研究ではない)を策定し、再スタートしたら良い。

所でリクルート事件である。リクルートの未公開株を秘書が受領したことは事実のようであるが、真藤さんがそれをわたくしするようなことは一切無く、また、リクルートに何か便宜を図った事実も全く無い。それにもかかわらず、清廉潔白な真藤さんは罪を着せられ、収監までされたのである。

検察は正義の味方などと喧伝されているが、私にはどうも腑に落ちないのである。

図らずも今、パーティ券問題で検察が色々動いているようであるが、ふと思い起こすのは、検察の真藤さんに対する対応である。

改めて真藤さんのご冥福を祈りつつ、この辺りでボケ老人の追懐を一先ずお終いとす

「現場に密着した技術開発」

さる大会社では、OB連中がつくる同窓会誌がある。そこには色々な記事が載っているが、主要記事の一つとして、会社の、研究所における活動の報告と附属病院の健康促進に関するモノがある。

何れもかなり専門的な用語などが用いられた高度な内容である。

健康促進にかんする方は、医学にかんしてはずぶの素人であるが、毎日の健康が気になる老人にとって、結構理解でき面白い。これは現場というか、現実密着である故であろう。

一方、研究報告の方は、横文字の羅列でサッパリ分からない、こちらに関してはロートルとは言え技術者の一人と自認しているのだが。

嘗てこの会社は、通信という一つの事業に特化していた。研究とその実用化も通信事業を行う現場に密着した、極めて現実的な性能向上と事業コスト削減を目指したものであった。

ところが、ある時から会社は、事業の多角化戦略を目指して色々な事業に手を出して、それぞれが子会社化された。それらの中の主要な子会社には自分で研究所を持つ所もできた。

こうなると、親会社(持株会社)に附属する研究機関には直属する現場が無くなってしまい、大学の研究所のような研究活動を行わざるを得なくなる。

採算性を重視しつつ、事業の発展に寄与する生きた実用化研究は、現場に密着せざるを得ないのではないか。企業における研究は、「現場に密着した技術開発」を第一義とすべきとおもうのであるが、如何であろう。料簡が狭いかな。

「再び IOWN」

嘗て、此処で IOWN は分からないと嘆いた事がある。

その後、色々勉強してみたが、相変わらず分からない。よっぽど耄碌してしまったのだろうか。

ここで思い起こすのは、昔、喧伝された INS である。これも分かったようで分からない話であった。

実際、世の中を席卷したのはインターネットである。インターネットは INS とは似て非なるものであった。

IOWN は、何がどう変わるのか具体的に、耄碌老人に成程と分かるよう、ご説明頂けないものでしょうか。

瞽女（ごぜ）のことなど

日本ベンダーネット社長 エッセイスト 田上 智



機会があって、瞽女について調べた。瞽には鼓という文字が見えるのは訳がある。室町時代から存在し、「鼓を打ったり三味線を弾いたりして、歌をうたい、門付けをする盲目の女芸人である。民謡、俗謡のほか説経系の弾き語りをする」とある。ずいぶん昔のことだが、「はなれ瞽女おりん」という映画を見てその存在を知った。団体で行動することを原則とするが、男子と関係したので、タブーに触れ単独で行動を余儀なくされ、日々苦難の連続の様子が描かれていた。さて、鼓はその後の年月を経てなくなり、三味線と歌が残ったのである。

たまたま、ドキュメンタリーで人間国宝にもなった小林ハルさん（1900年—2005年）のことを調べたが、生後3か月で白内障を患い、両眼を失明した。5歳の時から「一人で生きてゆけるように」瞽女修行を開始、8歳の時から巡業を開始、生国の新潟、山形、福島と延べ、50万キロ、地球を10周した勘定になる。視覚障害者が生きてゆくには、当時、瞽女か按摩（マッサージ）ぐらいしか生きるすべがなかったようだ。同じく、津軽三味線の名手、盲目の高橋竹山も同じく、幼少の頃から芸を仕込まれた。

瞽女の修行は厳しく、文字通り、血と涙の連続である。まず、三味線は毎日の猛練習、手の爪は、血にまみれる。人差し指、中指、薬指の皮が破れ、出血するのだ。声の方もやはり過酷だ。よくとおるようにと、寒声（かんごえ）といって、寒中に喉を鍛えておくといいい声が出るということで、寒さが厳しい折に、早朝と夜に、信濃川の土手に出て発声練習をしたのだ。声を命とする人間にとっては気合もはいるが、瞽女独特の練習方法で出血するほど喉を傷める。民俗学者・佐久間惇一によると、「一度つぶしてから出す、腸から出る声」と評し、同じ瞽女でも順境に育った者の声とは、全く違ったようで、人によっては、「日本のベルカント唱法」という者もいる。聞く人は、その迫力に押されたといっている。瞽女歌は文字通り口伝であり、レパートリーは500曲ほどであったともいわれている。領域も多岐にわたり、常磐津、新内、清元、義太夫、長唄、端唄、三河万歳、都都逸なども出来たのである。一度聴いたら忘れない、絶対音感のようなものを持っていたのかもしれない。

苦勞の連続であったが、「川野楠己氏によれば、善い原因が、善い結果をもたらすという因果の概念に従って生きてきたのだと説明している」。確かに、芸術家としてでなく、個人の人生は、あまり幸福とは言えなかったが、身体的なハンディがあっても、それを逆に乗り越えたことにより、常人にはなしえなかった偉業を残したのかもしれない。その人生には感動する。（2024.1.27了）

新春浅草歌舞伎を堪能して

日本ベンダーネット社長 エッセイスト 田上 智

若手歌舞伎役者の登竜門と言われる「新春浅草歌舞伎」を堪能した。演目は、「本朝廿四孝十種香、与話情浮名横櫛源治店、神楽飄雲井曲毬・どんつく」の三題であるが、このうち、歌謡曲「お富さん」で知られた与話情浮名横櫛（よわなさけうきなのよこぐし）についてふれる。

1954年というから、自分も子供の頃、「お富さん」という流行歌が一世を風靡した。春日八郎が歌ったこの歌は、発売からわずか四か月で40万枚、最終的には125万枚を売り上げるという空前のヒットとなった。

（お富さんの歌詞）

粹な黒堀 見越しの松に
仇な姿の 洗い髪
死んだはずだよ お富さん
生きていたとは お釈迦さまでも
知らぬ仏の お富さん
エッサオー 源治店（げんやだな）

テレフォンガイドを聞かない限り、内容はわかりづらい。あとあと、話のあらすじをネットで全容を知り、このお富さんや歌舞伎の意味合いが理解できた、もともとの歌舞伎の台本は、実話をもとに、幕末から明治にかけて活躍した三世瀬川如臯（せがわじょこう）が書き下ろしたもの。「・・・切られ与三郎大いに評よし。与三郎は八代目團十郎が当たり役にて、・・・」とある。この原作者・三代目瀬川如臯なる人物は、はじめは呉服屋を営んでいたが、後、中村座の立役者となった。

このお富さん、実話でも歌舞伎でも、必ずしも悲劇ではなく、源治店の部分でもハッピーエンドの風情があると見たほうが当たっている。さて、そもそも、歌舞伎と言え、その成り立ちは、関ヶ原の戦いの頃、出雲の国の「阿国」から始まる。出雲大社の巫女から出発したが、大社の修繕費用を賄うため、諸国をめぐって踊り始めたのがスタートらしい。自分も、電電公社・島根通信部勤務の折、しばしば大社の近くの丘にある出雲阿国の墓を訪れた。例えば、水谷八重子など多くの著名な役者も拝みに来ている。現在、女性が歌舞伎の舞台に立つことはないが、これには、曰く因縁がある。はじめは、女性によって歌舞伎が演じられたが、寛永六年（1629年）に幕府により、風紀紊乱とのことで、男子のみによって、現在まで演じられている。なお、阿国以来延々と続く歌舞伎が、戦争直後、一部が上演禁止となったことがあるが、すぐに解除された。その後は、ご存じ、市川猿之助の「スーパー歌舞伎」の創作など、数々の工夫が重ねられている。

歌舞伎は、平成21年（2009年）には、正式にユネスコの無形文化遺産にも登録されている。（2024.1.16了）

やどかり族の中国俳柳紀行序章(7)

(1996年8月3日～同25日)

元 JICA シニアボランティア
北垣 勝之

8月17日(土)

午前8時、ドラの音とともに仙娜号(Princess Sheena)は出航した。今日から3泊4日、武漢まで長江(揚子江)の長い船旅が始まる。仙娜号は1992年ドイツ建造、5,936総トン、134室、258人乗りの豪華客船であり、三度の食事は船内ビュッフェで世界中の料理を堪能できる。また、時々キャビンを出てはルーフデッキに上がり、大河を行き交う大小の船や、大陸の田園風景の移り行く様を眺め興ずることもできる。なんとも贅沢で優雅な旅である。

午後、豊都(Feng Du)で上陸、小高い山の上にある‘The Ghost City’をグループになって見物に行く。ロープウェイで上ると寺があり、その周囲に勧善懲悪を論ずいろいろな幽霊のディスプレイがある。それらをガイドの案内で見て回る仕掛けになっている。いわゆる典型的な観光地のワンスナップに付き合う。

8月18日(日)

2日目の午前9時頃、三国時代蜀の劉備が呉との戦いに敗れ逃げ込んだという白帝城の先、「瞿塘峡(Qu Tang Xia)」に差し掛かる。岩壁に穴を開けて棺を埋葬した跡が絶壁の所々に見られる。その風箱峡を通り過ぎ、巫山(Wu Shan)で40人乗り位の底の浅い小型船に乗り換え、大寧河の小三峡に入る。この船はエンジン駆動であるが、その馬力だけでは急流を遡ることができず、ときどき長い竹竿を持った船頭が二人がかりで渾身の力をこめて船を押し上げる。河辺で水浴をしている子供たちもいる。しかし彼等の多くは、手にした水晶玉のようなきれいな玉を船客に売りつけようと流れを泳いでくる。よく観察していると、中には商品の玉を見せびらかし代金だけ奪って船をやり過ごす悪質な子供もいる。休憩上陸した停泊地で家内と二人だけ先に船に戻ってくると、スイカをうまそうに食べていた船頭たちが、しきりに我々にも食べないかと勧める。さすが中国も奥地まで来れば心優しい人々がいるものだと感心していると、かわりにカネをくれと言いつ出す。もともと衛生状態も判らぬところで切ってきたスイカ、いただく気などさらさらないので無視していると、今度は石の玉や古銭等を持ち出してきて買わないかと催促する始末。一見純朴そうな人々も一皮むけばお金目当てで、見てはいけないものを見てしまったような気がした。

小三峡から戻り第2峡「巫峡(Wu Xia)」へ入る。この辺りは2000m級の山々が兩岸に連なり、全長44kmの水路も絶壁に囲まれて幅が狭い。夕焼け空をバックに連山と往来する船のシルエットが美しい。思わず写真を撮りまくる。

8月19日(月)

3日目早朝、第3峡「西陵峡(Xi Ling Xia)」を通過する。入口近くに屈原の故郷、その先に王昭君の故郷がある。この溪谷は全長75kmと長い、その出口に今話題の「三峡ダム」工事現場があった。すでに山を崩し、岩石を運ぶダンプカーが列をなして往復し、大規模な工事が進行中である。1997年の秋には長江の本流を堰き止め、本格的なダム工事に入るといふ。これにより多くの史跡・名勝も水没すると聞いているが、小三峡で見てきた岩壁の水面と並行して開けられた小さな四角い穴、これはその穴に横木を差し込

んで通路をこしらえた跡であるが、この水上に出っ張る細い道を通って行き来した山奥の人々の知恵の跡も、すべて水位上昇とともに視界から消えることになる。

水位 20~30m を調節し、長江を往来する船の交通整理をしてきたのが葛州壩(Ge Zhou Ba)堰である。大変興味があったので水門の開閉、船の出入りの一部始終を仙娜号のデッキから観察した。原理は浮きドックと同じ、ここでは一度に大小 10 隻位の船をドックに入れて上下に運ぶ。ドック内への水の出し入れに時間を要し、通行に 30 分以上もかかるのが難である。



長江も山間に入り船しげく(三峡)



欧州の運河技術でダム航行(葛州壩)

沙市(Sha Shi)で上陸、バスで江陵の博物館へ行く。ここで楚時代の音楽実演を観賞、次いで荊州古城を訪れる。矛盾の語源にもなった矛があったり、諸々の展示物で関羽の名が見られるなど、三国から戦国時代に亘る歴史観光巡りとなった。山口県庁から水利調査のため当地に来て、たまたま仙娜号に同乗していた 7 人組の一人は、新知事就任式に出席しなければとここから上海に飛び、さらに香港経由で日本に帰ることになった。こういう話を聞くと折角の桃源郷から急にうつせみの世に引き戻されてしまう。(次号に続く)

<事務局注>本稿はやや古いが、かえって新鮮であり、切にご寄稿をお願いしたものです。

メッセージリレー(5)

平素より ICT 海外ボランティア会(ICTOV)に多大なるご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。当会では、当会会報配信先の皆様から、「私の海外とのかかわり、など」につきまして、当会会報にリレー形式(五十音順)でメッセージをお寄せいただくことを企画いたしました。順番に別途ご依頼いたしますので、ご多忙のこととは存じますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

お寄せいただきたいメッセージの内容は次のとおりです(全部又は一部選択可、文字数自由、図・写真添付可)。

- ①今までの海外活動のご経験など
- ②最近取り組んでいることなど(仕事、趣味、旅行、健康など)
- ③最近笑ったこと、うれしかったこと、感動したことなど
- ④ICT 海外ボランティア会(ICTOV)へのご意見など
- ⑤その他(皆様への呼びかけ、メッセージなど)
- ⑥お名前(必須)

なお、過去の事例は当会ホームページに掲載しております。

<https://ictov.jimdo.com/home/message-relay/>

北垣 勝之

ICT 海外ボランティア会との出会い

2003年4月 JICA・SV13名は派遣先のカンボジアへと赴く。この中に村上勝臣氏もいた。プノンペン空港に着いた頃はどこの誰かも分からなかった。ただ通信関係の技術者位の認識だった。彼はプノンペンで任務に就き、私はそこから東北約 300 km の地バッタンバンへと別れる。たまに JICA 事務所で同期の SV が顔を合わせることはあっても、任地が違えば直接会う機会はそう多くはない。カンボジアでプレイするゴルフ好きの SV 仲間がわざわざミャンマーまで出かけたとか、本業以外で彼の名前を聞く程度であった。でも2年間の任期が終わり帰国する頃にはお互い旧知の間柄となっていた。それは彼の人柄と行動力に惹きつけられたからであろうか、広く世界を知ろうという意識に促された SV 同士の情報交換がきっかけであった。

2005～2010年にかけて、彼はさらに南太平洋のトンガに2年間、そして JICA ではないがアフリカのコンゴ共和国へと出向く。それら発展途上国での活動状況を写真付きで知らせてくれた。私の方も 2006～2009年にかけて中東ヨルダンの職業訓練所運営指導や、アンマン商工会議所傘下のタイルメーカーに人的資源管理のコンサルタントとして従事した。そうこうしているうちに 2011年3月運命の東日本大震災を迎える。彼は宮城県栗原市の実家に戻り地元でコツコツ仕事をする傍ら、ICT 海外ボランティア会の活動にも積極的に係わり会報発行の編集長を務めていた。巨大地震による被害に殊のほか心を痛めながら。

一方、私とは言えば JICA・SV 卒業後、専らあちこち海外旅行に出かけては紀行文に纏め、かつての SV 仲間と情報交換していた。たまたま 2013年と 2017年に訪れたモロッコ紀行、特に後者ではモロッコ大西洋岸のアガディール訪問時のことが記録されていた。当地は過去に3回地震に見舞われ、最も近い 1960年の大地震では甚大な被害を被っていた。街が一望できるカスバ(要塞)に向かうタクシーの運ちゃんが、途中街中のビルを指しては「あれはオリジナルのビル、その隣はニューなビル」と説明する。なんのことを言っているのか皆目見当がつかなかったが、話の中に「ジェンザイ」というアラビア

語が出てきて気が付いた。ヨルダンでSV滞在中、地震大国日本の話をしたとき覚えた言葉である。モロッコには数回入国しているが、アガディールが大西洋プレートによる地震の被災地だったことをこの時初めて知ったのである。運ちゃんの言う新ビルは倒壊ビルの再建、それに伴う街の復興を誇示したかったのであろう。この逸話を紀行文にしたため東日本地震に苦勞された村上勝臣氏にも送ったところ、彼からICT海外ボランティア会報に掲載してもよいかと打診を受けた。「勿論、お役に立てば」と快諾したのが本会とのご縁の始まり、爾来コラム「海外便り」を通して皆さんと触れ合うことになった次第です。

カンボジアのいろいろ

ここでは村上編集長(当時)のカンボジア報告にはない私なりのエピソードを付け加えることにする。それは生成AIでも追いつかない体験実話になるだろう。

私たちがカンボジアにいた頃はクメール・ルージュによる混乱から20数年経ち、ようやく復興軌道に乗り始めた時代だった。国民の平均年齢は若く20歳代であったろう。当時の統計はないが最近の数値では26.5歳(2021年)、長寿傾向にあるが出生率も高く平均したら今昔の平均年齢はあまり変わらないはずだ。とにかく粛清で高齢者は抹殺された国である。従って若さに溢れ自由と希望に満ちた世相であった。若者には苦を苦と思わない前向きな思考がある。これは国勢を見る上で大きな指標となる。

国のど真ん中にトンレサップ湖という広大な沼沢池がありメコン川の水量調整を担っている。これによって米作農業や淡水漁業を営み、亜熱帯特有の豊富な果実もある。高床式住居下に放し飼いの鶏、養豚、山羊や水牛などの放牧もあって自給自足が可能な環境にあった。おまけに宝石・貴金属の産出、かつてポルポトもそれを財源に決起したきらいがあるが、未開発の天然資源も蔵す。

この様な地勢を鑑みるに、この国は国政さえ間違わなければ将来大化けする可能性を秘めているなど予感した。事実、長期にわたるフンセン首相の外交姿勢、特にインフラ整備において大国からの支援を巧妙に誘導、例えばトンレサップ川の架橋、最初は日本橋で1994年に日本の援助で修復完成した。その後2000年代になって韓国橋、さらに中国橋まで三つの大橋を寄贈させてしまった。なお、コンポンチャムのメコン川に架かるスペイン絆橋も、日本の無償援助で2001年に完成したもの。時と場合のTPOで先進国の下心を巧みに利用する術に長けている。共産主義主導のポルポト、ベトナム戦争時代の頃はソ連や北朝鮮に接近、地雷や兵器やダム閘門などを調達したが、ソ連製旅客機の墜落事故もあってソ連とは次第に疎遠になる。北朝鮮については今でもプノンペンで妓生キャバレーの営業が行われているところを見ると友好関係は続いているようだ。

最近是中国資本の進出が著しい。特に南部の港湾都市シアヌークビルは、中国から大量のヒト・モノ・カネが流入して活況を呈す。20年前は小型貨物船が接岸する程度だったが、今では大型船も来航、市街には瀟洒なホテルや店舗が建ち並ぶ。日本の特殊詐欺グループがここを根城にしたのも頷ける。あわせて海浜は一大リゾート地域、世界中の老若男女がビーチに憩い日光浴しながらドーン(椰子の実)で喉を潤す。一帯は自然あふれる国立公園でもある。かくしてカンボジアは、北のシェムリアップ(アンコールワット)と南のシアヌークビル(別名コンボンサム)の二大観光地で栄える。なおカンボジアは2011年以降中国の支援を受けGDP年率7%前後の高成長を謳歌している。

バタンバンの雨神様

ポルポト最後の拠点となったバタンバン、ジェノサイドから20年後の様相は若い人々がイキイキと活動する街であった。旧市街のプサー(市場)は庶民生活が直に伝わってくる。肉屋の前に行くと、それまで黒い塊だった肉が急に赤色に変わる。たかっていたハエが飛び去ったからである。大袈裟に言えばそんな雰囲気、でも果物屋にはたくさん

の亜熱帯特有のフルーツが並ぶ。それに安い。滞在中一生分のライチーやマンゴスチンなど食べ尽くした。仕立屋を覗けば若い女性が足踏みミシンで縫製中、最後は傍らの炭火アイロンで仕上げる。戦中時の日本を思い出す。市場の周囲には魚屋の排水も混じり、ドブ水のような水溜まりができる。人混みと悪臭、これもまた懐かしい。

そんな下町の一角に4階建てのビルが1棟、その屋上に大勢の人ばかり、彼等は静かに遠くの方を眺めている。双眼鏡をかざす者もいる。真っ昼間に何だろう、ドッグレースかな、それとも特別なイベントかな、一抹の疑念を抱きながらその場を後にする。

バタンバンに単身赴任中の私はホテル住まい、従って食事はホテルのレストランで摂ることが多かった。職住接近なので昼食も一旦ホテルに戻り、食堂のボスと会話しながら食す。その際、彼は決まって「今日の天気はどうかしら、雨が降るかな」と言う。お天気の話は挨拶の定番、別に気にせず「そろそろ降るかもね」と言えば、「何時ごろ、どれくらいの雨か」と執拗に聞いてくる。亜熱帯の土地柄、日に一回はスクールがやって来る筈、むしろ降らないと予測する方が面白い。私も興味半分、その都度あてずっぽうの私見を述べてきた。そうしたら私の予想がよく当たると言い出し、すっかり彼のお友達になってしまった。

そんなある日「家族みんなでコンピンプイの見晴らしのよい所にピクニックに行くので一緒に来ないか」とお誘いを受ける。日曜日のこと、こっちも暇を弄んでいたので二つ返事でOKする。当日は好天に恵まれ10時過ぎに出発、彼の運転で約1時間のドライブ、湖沼の先にタイ国境の山々が見渡せる。料理はお手のもの、レストランの食材とワインで乾杯、マダムと子ども連れのボス一家と静謐な自然の中、木々に吊るしたハンモックで寛ぐ。勿論、食事中的会話はきょうのお天気具合、青天の中に一朵の雲が南から北に向けて動きだしたので、私の見立ては午後早々にバタンバン市街に雨が降ると占った。

コンピンプイには、ポルポトが連行した強制労働者によって築かれたダムがある。付近山中には未だ除去されていない地雷があるかもしれない。でもそんな悪夢は遙か彼方に消え、楽しい食事を済ませて雲の動きが多くなってきたところで我々は帰途に就いた。バタンバンの街が近づくにつれ雲は増えて雨が降り出した。ワイパーの動きが激しくなる。運転手のチャン(ボス)はスピードを上げハイテンションの言葉を発す。「やったぞ！大雨だ」。

市街ビル屋上の観客は、みな雨降り賭博の同好者たち、チャンもこの賭けの常連者であった。いつも携帯電話で雨降り時刻と雨量を申告、本部ビルに設置された雨水缶で丁半の判定が下される。何度か当たり外れはあったものの私の勘がチャンの賭けに寄与してきた。いつしか私は「雨神様」に祀り上げられ、彼のご相伴に付き合うことになる。後日、雨降り賭博はバタンバン市の条例によって廃止になった由、これで私もほっとした次第である。

私の海外活動

初めて海外に出かけたのは、今からおよそ50年前、日本造船工業会のミッションとしてパリにあったAWES(欧州造船工業会)との会議のための出張であった。当時、日本の造船業は圧倒的に強く世界市場を席卷していた。AWESはその要因を日本業界のダンピングの所為と非難していた。これに対抗するため我々業界の若手作業グループが、コスト管理や生産性の面から資料を作り欧州側に説明することになった。そのための海外遠征の旅であるが、米ソの緊張が高まるなかソ連空域が飛べず、アラスカ経由北極回りでコペンハーゲン入りする。オスロの造船・石油掘削業界、ハンブルグやロッテルダムの港湾関係施設を視察してからパリの会議に臨む、帰途はロンドンのドォルーリー海事研究所やロイド保険協会に立ち寄り、大西洋を跨いでワシントンへ飛び米国商務省(造船所管部署)を訪問、さらに列車でニューヨークへ向かいニュージャージーの顧客エッソ石油

タンカー部門を表敬訪問する。と言うわけで北半球を一回りする旅路であった。日本が30年以上も世界シェアのトップに君臨した業界は光学と造船の二つ、かつ船舶は七つの海に浮かぶ広告塔の役割を果たす。

その数年後、私は二回目の海外出張に出かける。これは勤務先の労働組合支部執行委員長に任じられていたからである。当時、ブラジルで製鉄所の建設(ヴィトリア)、造船のCNN支援(リオデジャネイロ)、エンジニアリング会社(サンパウロ)などの事業運営をしていたので、これらに派遣された社員および家族に対するオルグや、現地の労働環境調査を行うことが目的であった。帰途ヒューストンに立ち寄り駐在員と懇談する。ここは宇宙開発基地だけでなく米国切っの石油資源開発技術センターになっている。このような芸当を演じられたのも非専従の組合員だったからである。経営者と労働組合幹部で行われる経営審議会では組合側の席に座り質問に立ち、それに答える経営幹部の説明資料作りも一方で準備するという内股膏藥の役割を担っていた。

その他の海外活動は、外務・文部省共管による国際交流ディレクターとして3年余の香港生活、その後JICA・SVとしてメキシコ、カンボジア、ヨルダンにそれぞれ2年間滞在、いずれも職業訓練校の指導に当たった。なお、ヨルダンではアンマン商工会議所傘下企業の人的資源管理の短期コンサルタントとして従事した。これらの詳細説明は割愛する。

外国語との付き合い方

海外活動で重要なことは言わずと知れた言語の使い分けであろう。基本的には英語が万能であるかのように見えるが実態はそうでもない。通常、英語ではなく自国語の国は多い。イギリス・コッツウォルズの英語研修センターに約1ヶ月通ったことがある。ここには欧州各国から1週間単位で英語のリスキリングにやって来る。フランス化粧品会社の秘書、ドイツ大手化学メーカーの中年男性、イタリア・フェラーリの若手社員、スイスの独身女性、他にポルトガルやスペインなどからも参加者がいて多彩な顔ぶれであった。彼等は仕事上英米人との交渉が必須不可欠で、そのための英語磨きである。私も一緒に英語のブラッシュアップに参加したが、面白いことに文法や作文においては私が断トツ、皆々先生からの出題に苦慮して私のところに聞きに来る。日本受験英語の威力をまざまざと見せつけた次第である。ところが毎朝TVニュースを見た後のヒヤリング問題では私の方はからっきし聞き取れていない。逆に彼等に尋ねる始末である。以上の例からもお分かりのように英語は特定目的のための言語であり、英語圏外の人々の生活や文化などに触れる際には当該国の言葉でコミュニケーションした方がよさそうだ。この私見を公にしたら‘English follows Japanese’とChat-GPTから反応があった。面白い世の中である。

米国で英語をマスターするべくMBAなど資格取得をかねて留学する人は多い。けれどアメリカでの修業はエッセイの書き方とか簡潔な英語表現を学ぶことに力点が置かれている。オハイオ州の大学に短期遊学した時の体験からも、日本の起承転結方式は冗長になりやすく敬遠された。まずは結論ありき、後はそこに至った説明を要領よく論述するだけである。

ヨルダンで人事管理のコンサルをしたとき専門用語の説明に苦労した。そんなとき英語スピーチの技を磨くトーストマスター(toast masters)という訓練法を思い出し、とにかく途切れなく英語をしゃべり捲くるようにした。何ら難しい言葉を使わなくても易しい単語で機関銃を撃てばよいだけのことである。但し、言語は「話し言葉」と「書き言葉」の両様あり、国や民族によって表音文字もあれば表意文字もある。時と場合によって使い分けねばなるまい。例えば同じ中国語と言っても北京と台北では同音異語の扱いになる。

海外紀行記の遊び

海外活動のもう一つ重要なことは記録を残すことだろう。すなわち活動の要点を記述して更なる発展に結びつける。私の場合、この作業は「わが俳柳」による五七五調文言の随筆となる。物事の本質を抉り出し、なるべく遊びを入れて「遊 more」とする。ユーモア・エスプリ・ガイェストが無ければワサビのない刺身を食うようなもの。この習慣は四半世紀前のメキシコ時代から始まり今日まで続いている。映画「**Shall we ダンス**」の舞台にもなった白井木戸公園での日課ジョギングが創作場所、今まで約3万句を詠む。そもそも走句が原点でジョギングの苦走の中、形而上世界のイド状態から発句が生じる。でも「汗だく(駄句)」の所産多く本来他人様にご披露する程の代物ではない。本会会報の「海外便り」では臆面もなく一部開陳しているが冷や汗だくだくの思いである。

ところで JICA・SV レポートとして先様に提供する成果物はそんな訳にはいかない。スタンフォード大の修士論文を書く位の心魂を打ち込んで上梓する。メキシコ「CONALEP (国立職業訓練教育機構) 学生に対する意識調査アンケート集計・分析と提言」(2001年3月)、ヨルダン「アカバ職業訓練校(VTC)の運営指導におけるノウハウシリーズ(全10章)」などあるが、後者の中身を列挙すれば次の通り。①リーダーの要件、②職員会議の勧め、③データベースの開発、④5S運動の勧め、⑤仕事を生み出そう、⑥キーマンはインストラクター、⑦全職員に目標管理、⑧民間企業との付き合い方、⑨文書による情報伝達、⑩VTC 事業将来像、以上の10項目である。海外活動のまとめは対象の如何によって硬軟使い分けた文字情報のアーカイブス(archives)となす。

JICA との関りから

海外活動で重要なことの三番目は常に好奇心を持ち学ぶ姿勢を持つことだろう。教えると言うより他者と協働しながら新しい価値を創造することになる。その意味では JICA から多くのことを学んだ。多士済々の SV と現地で接し親交を深める。冒頭の村上勝臣さんだけでなく数多の国際人との交流は、情報交換を通じ時に私が手の届かなかった国々の写真や、海外在住健筆家から寄せられる旅行記など、いずれも励みになると同時に刺激にもなった。

方や一部の SV には、自分の思い通りにならないという理由で CP(カウンターパート)を交代させる者、また指導分野の能力が要請国のレベルに達しないという恥辱を味わう者もいた。このような mismatch は今日のようなパラダイム変換期、就中、価値変化や技術革新の最中であっては益々増えてくるだろう。いかなる時代であろうとも異文化社会と接遇する際には、ともに学び共栄していく気持ちが尊重されなければなるまい。

2024 年になり年齢 85 となる。今まで気楽に出かけていた海外にも局地戦争や紛争、天変地異や災害、おまけに円安進行、治安弛緩、疫病蔓延など、雑多なバリアーに阻まれて安易に実踏できなくなった。今後は草庵に籠り静かに国際化の底流を見守りたいと思う。(完)



(故) 村上勝臣さん(アンゴラ・テレコム本部前にて)



青年協力隊派遣研修会(JICA 二本松にて筆者)

①今までの海外活動のご経験など

(1) NTT 研究所時代は、論文発表や新技術視察など。

1975年 ICCC の会合(アラバマ州)で「デジタルファクシミリ」を発表 その後、サンフランシスコの SPRINT 社とカナダ・トロントで新システム視察

1980年～2000年にかけて

- ・ NTC の会合(ミュンヘン)で「INS 通信処理システム」を発表 その後、フランス・ビアリッツで新システム視察
- ・ ベル研 & ATT の新技術、新システム視察で、アメリカ各地を訪問
- ・ 日韓の会合(慶州)で「NW オペレーションシステムプラットフォーム」を発表 韓国人研究者と交流 (以前ビアリッツからパリへの飛行機の中で韓国人営業マンと知り合い、韓国語を勉強するようになっていた)
- ・ テレコム (スイス・ジュネーブ) に出張して新技術、新システム視察

最初の ICCC の発表では、会合の視察に来られた NY 事務所の畔柳功芳様と青木利晴様が、私の論文発表の場に来られ、質疑応答の際に助け舟を出していただきました。初めての外国での発表で不安だった私にとって、大変心強かったことを今でも有り難く覚えています。

(2) 定年退職後は日本語教師として活動

「退職後は NTT と関係ない所で活動したい」「もともとやりたかった文系の仕事(歴史や語学)をやりたい」と考えました。海外で生活しながら活動するには何が最適か？を考え、最終的に世界中に日本語学習者がいて海外に行ける可能性があるということを知り、日本語教師の道を選びました。退職の2年前から教師養成講座に通い、知識、実技を学び資格を得ました。2004年定年退職の後、2005年から都内の日本語学校で非常勤講師として、中国、台湾、韓国からの大学院志望者を指導しました。その後、やはり”海外で生活しながら教えたい”と思い、いろいろ調べて、W大学の先生の「ベトナムの優秀な学生に日本語を教え、日本の中小企業に紹介する」というインキュベーション活動を知り、面談の結果ハノイで教えることにしました。経済的にはホーチミンの方が発展していますが、ハノイの方が緑や水が豊かで、故郷である熊本によく似た感じで落ち着いて過ごせました。

2006年から最初の半年は先生紹介の学校で中小企業やニッサン系・設計部隊のための学生を教え、その後の一年半は他の学校に転職してトヨタ系企業のためにハノイ工科大学、交通運輸大学の学生を対象として、自動車製造技術を教えたり、企業面接の際に卒業論文を日本語で紹介・議論できるように技術日本語を指導しました。指導した学生のうち10名程度が現在でも日本で家庭を持って社会・企業に貢献しており、交流を続けています。

ベトナム語はアルファベットを使いますが、発音が難しく、特に母音は文字種と声調の組み合わせで多数になり、発音も聞き取りも超難しいです。私はベトナム語を話せませんが(話せるつもりでいますが)、私の話を理解できるのは生徒達だけです(文法は正しいけど、発音がムチャクチャなので)。

社長がバイクを貸与してくれたので、ハノイ市内をくまなく走り、遠距離郊外ツーリングも大いに楽しみました。

地域の農業指導に訪れていた JICA の指導員と知り合いになり、一緒に飲み歩きました。帰国後 2009年に胃癌 Stage3 が判明し手術後の抗癌剤治療で免疫力が落ち外出困難となりましたが、社会的孤立を避けたいと思い「オンライン日本語教師」に登録し、インターネットを介して各国の学生を指導しました。抗癌剤治療終了後は対面授業を始めま

したが、都心の恵比寿ガーデンプレイスや六本木ミッドタウン等の先端企業での授業の際に活気ある町や人々の様子を見るのは、プチ田舎住まいの身からすると新しい経験・楽しみでした。

これまでに「好意をもって教え、敬意をもって教わる」の気持ちで約 30 か国の社会人、学生と向き合い、大学院レベルの日本語能力取得を目指す生徒への指導、就職内定した留学生へのビジネス会話指導、転職に挑戦する生徒たちの履歴書作成や面接指導等を手伝ってきました。中でも、ある生徒はネット動画や本を基に自ら作文し、それを私が添削するのですが、私自身では余り興味を持たない分野、例えば経済・投資、哲学、政治学、心理学なども書いてくるので、日本語を指導しながら様々な事柄を勉強することが出来ました。特にアドラーの「嫌われる勇気」を学んだことは、大いに役立っています。

②最近取り組んでいることなど(仕事、趣味、旅行、健康など)

(1) これまでの日本語指導では概ね上級、超上級の学生を指導してきましたが、最近、ひらがなやカタカナも十分に読めない超初心者指導することになりました。元々自身の聴力が落ちている上に、相手の英語が非常に聞き取り難く、コミュニケーション困難で続けていけるか不安でしたが、生徒の身の周りの個人的な事柄(例えば、近所の地図を見ながら地名の発音とか、スーパーやコンビニでの買い物話など)を取り上げたところ、乗ってくる感じがあって何とか続けることができ、最近では3番目の趣味として「日本語の勉強」を言ってくれるようになりました。

とは言っても、様々に工夫しながら10回以上レッスンを続けても相変わらず文字が十分読めないの、いろいろ調べて「外国語マスターのより良い方法」を提案したのですが、仕事で多忙を理由に余り積極的でない態度で、最低限の日本語で良いと言ったので「分かった!そっちがそのつもりなら、こちらもそれに応じた教え方をすると少々キレて言いました。すると心を入れ替えたのか、最後にはレッスン時間の増加(週1回90分→週2回×2時間)と、「最終的には会議の時に日本語で説明・議論できるようになりたい」と言ってくれるようになりました。

生徒が安心して楽しい生活を送れ、仕事の場で力を発揮できるように、一緒に頑張りたいと思っています。

(2) 地域活動に参加: 地域とのつながりを持ちたいと考え、高齢者の困りごとを手助けする「地域サポート隊」に登録しました。実際に参加して、あるお宅の庭の片付けや窓ガラス拭き、家電製品の修理・調整などを行い、喜ばれると共に、役立てたという喜びを感じています。更に労働の対価として僅かですがお金を頂いています。

③最近笑ったこと、うれしかったこと、感動したことなど

これまでに教えてきた生徒達で、成功(試験合格や資格取得など)や幸福(結婚、子供誕生や家の購入など)があった人に、お祝いの言葉や気持ちを伝えると共に、目出度いことが周りの人にも訪れるようにと「肖り(あやかり)パーティ」を何度か開催してきました(元生徒が経営するレストランで実施)。成功した人に動機、苦勞、展望などを話してもらい、それを聞いた人が「自分も頑張ってみよう」と思ってくれたら、結果的に”肖る”ことになるかもしれないと思っています。昨年春には試験合格や結婚、子供誕生があり、秋にはMBA卒業を祝いました。

中でも仕事、家庭・育児に取り組みながらMBA卒業した生徒がソーシャルビジネス(=貧困、食糧不足、環境破壊などの社会問題の解決を行うビジネス)に取り組もうとしており、また長年指導してきた生徒が結婚してアメリカに渡り帰国後の起業に向けて勉強・準備をしています。元生徒達はそれぞれIT、保険、財務、医療、化学、機械、通信、報道、ゲーム等の分野のプロであり独立したポイントですが、私と日本語を学んだとい

うつながりがあるので、それをネットワーク化して何かソーシャルビジネスが出来ないか、まずは勉強会の声掛けから始めようと考えています。

④ ICT 海外ボランティア会(ICTOV)へのご意見など：特になし

⑤ その他(皆様への呼びかけ、メッセージなど)

退職後の人生の選択肢の一つとして日本語教師は悪くないと思います。日本語の指導を通して、生徒たちが日本で安全に楽しく生活を送れ、ビジネスがうまく行くように手伝うと共に、自分自身が新しい刺激に触れ、更に大きな声でハッキリ発音するので、認知症防止にも良さそうだと思います。幾らかの収入を得ることもできます。

申田 薫

① 今までの海外活動の経験など

1985年8月から11月にかけて JICA 中期研修を受講、これを機に、JICA 専門家としてペルーに長期専門家として赴任し、電気通信の技術指導を行いました。その後も、以下の通り、パラグアイ、パナマで電気通信の指導に当たりました。

1986年11月～1988年10月：JICA 専門家(交換)としてペルー共和国運輸通信省で、電気通信技術指導を実施。この間、大学や、研修センタで、電気通信技術の説明会等を実施するとともに、ペルー女性と国際結婚。

1991年11月～1994年3月：JICA 専門家(交換)としてパラグアイ電気通信学園でデジタル交換機の技術指導を実施。この間、学園に設置された NEAX 交換機の敷設と授業用教科書の作成・講義を行いました。

1996年10月～1998年10月：JICA 専門家(交換)としてパナマ電気通信学園で交換技術指導を実施。この時期、パナマ電気通信公社も英国の Cable & Wireless により民営化され、それまで日本で研修をしていた技術者たちが、日本に行くことなく、英国で研修を受けることとなり、日本のこれまでの協力も、ここで途絶えることになりました。

この他、短期の調査案件(JICA、NTT等)に参加させて頂き、貴重な経験を積むことが出来ました。

各々の国で、いろいろ貴重な経験をすることが出来たことは、私の人生の宝となりました。

また、1999年 NTT の分割後は NTT 東日本国際室に異動し、2009年まで、派遣専門家と研修生の支援を実施しました。これにより、バックヤード業務の大切さを思い知った次第です。

2010年、NTT 東日本を退職してからは、JTEC でアンゴラ案件に携わり、資金回収の大変さを経験させて頂きました。

② 最近取り組んでいることなど(仕事、趣味、旅行、健康など)

2015年に完全に仕事を辞めて以降、現在は、生来の病気の治療に専念しています。昨年9月からは、体調維持のため、介護保健を使って、運動に精を出しています。

③ 最近笑ったこと、うれしかったこと、感動したことなど

電気通信に関係ありませんが、やはり長男と長女の結婚と孫が誕生したことです。

また私が、ペルー赴任時にペルーの女性と結婚したことが影響したのか、長男もメキシコ在任時にメキシコの女性と結婚しました。「蛙の子は蛙」ですね。国際結婚が私の一番の国際貢献だと思っています。

④ ICT 海外ボランティア会(ICTOV)へのご意見など

一度だけ会に参加させて頂きました。皆様お元気でご活躍されていらっしゃるようで、頭が下がる思いです。これからも皆様のご経験と知恵を生かして、日本の未来にお役立て頂くことを祈念しております。

- ⑤ その他(皆様への呼びかけ、メッセージなど)
いつまでも、お元気で！

栗山 正雄

① 今までの海外活動のご経験など

駐在など海外勤務の経験はないが、海外出張は 50 回近く経験した。

海外出張で、長期かつ印象深かったのは、次の 3 つ、

- ・ J I C A の I C T 専門家としてバングラデシュに 6 週間 (2002 年)
- ・ 技術局の伝送担当調査員として光ファイバ伝送関連で欧州に 4 週間、仏・独・英のテレコム関係機関訪問の他、オランダで国際学会、スイスでテレコム'79 に参加、技術フォーラムで論文” Fiber Optics Introduction and Role in Public Telecommunication” を発表。
- ・ 同年 同様にカナダ・U S A に出張 (2 週間)、ベル研との討議など。
海外との繋がりも活動に含めれば、
- ・ 20 歳代、技術局伝送担当としてしばしば海外からの研修生に講義。
- ・ 30 歳代、上記の他、初の技術交流でタイの T O T, C A T に出張。
- ・ 40 歳代、中央電気通信学園ネットワーク部長として、10 コース以上の J I C A 研修を担当。またスウェーデンの電気通信教育国際会議に参加。国際部門と縁が深まり、N T T インターナショナルへ。豪州・N Z ・北欧等へ度々出張。
- ・ 50 歳代、N T T 退職後 N E C 海外事業部門で、主に顧客向けに最新技術のレクチャーを担当。

① 最近取り組んでいること

定年退職後は、頼まれて高校同窓会関係の世話役の一員や、その同好会活動に参加し、時間を割いてきたが、これらを収束し、自らの断捨離を加速したいと考えているところです。

- ② 最近笑ったこと、うれしかったこと、感動したこと
特にご披露する程のことはありません。

③ I C T O V へのご意見

この企画は大変良い企画だと思います。各人それぞれ素晴らしい活躍をされていたのに、余程身近にいた人以外記憶から消え去ろうとしています。

回顧録ほど立派でなくても、皆さんの生きた証がしっかり記録として残ります。

小林 満男

① 今までの海外活動のご経験など

海外勤務経験はありません。N T T 時代、仕事では米国等 3 ケ国を訪問しただけですが、海外には関心があり、旅行や学協会の視察等で 19 ケ国を訪問しました。

帰国するたびに、日本がいかに恵まれた国であるか、そして先人たちが累々と努力を積み重ねてきたかを実感しています。

- ② 最近取り組んでいることなど(仕事、趣味、旅行、健康など)

本会報 No.42 号に「新潟国際情報大学における国際化、情報化の取組み」を寄稿させて頂いて早や 10 年。1 学部 2 学科でスタートした本学は、今年、創立 30 周年を迎え、現在は国際学部と経営情報学部の 2 学部 3 学科体制で運営されています。

地方の文系の、小規模・私立大学を取巻く状況は厳しいものがありますが、お陰様で一度も定員割れすることもなく、現在に至っております。2011 年に入職し、JABEE 委員長・就職指導委員長を 5 年、学部長を 6 年。2022 年からは設置法人である新潟平成学院の理事として、大学の運営にかかわっております。

当初イメージしていた研究者の姿とはほど遠く、日頃の教育に加えて学内業務や所属する学会の運営、自治体等の委員業務に追われています。2014 年には経営情報学会、2018 年には日本経営学会、そして 2022 年には情報システム学会の全国大会を大会委員長として本学で開催させて頂きました。全国の研究者たちの交流の場として、また地元新潟の PR に少しでも寄与できればと考えております。加えて、日本一長い新潟砂丘を PR べく、地元の人たちと新潟砂丘遊々会を立ち上げ、砂丘ウォーキングを実施したり、砂丘地に自生する大エノキの保存樹登録・保全活動等、地域活動にも積極的に取り組んでいます。約 15 年間、NTT 法人営業担当として多様な人たちと交流できたことが大学教員としての活動に大いに役だっており、感謝しています。

③最近笑ったこと、うれしかったこと、感動したことなど

何と言っても卒研究生が無事に内定を頂き、そして卒業する時が一番うれしい時です。

本学では卒業論文は必須で、学生そして教員にとって卒業ゼミナール・卒業研究は大きな学びの場となっています。

④ ICT 海外ボランティア会(ICTOV)へのご意見など

「特別寄稿」、「海外グラフィティ」、「海外便り」は、いつも拝読させて頂いております。中でも昭和 60 年から 7 年間、NTT 中央ソフトウェアセンタ等でご指導頂いた石井 孝特別顧問の余話は、30 年以上も前の考えや出来事であっても現在に通じる内容であり、時間の隔たりを感じさせません。「情報システム」、「情報システム開発」の科目を担当する私にとって心強いメッセージとなっております。

⑤その他(皆様への呼びかけ、メッセージなど)

昭和 51 年、高専を卒業し 20 歳で電電公社に入社。平成 23 年、55 歳の役職定年と同時に本学に入職。定年(70 歳)まであと 2 年あまり。人生 100 年時代と言われる昨今、50 年間現役で働くことが当面の目標です。引続きよろしくお願い致します。

齋藤 邦夫

①今までの海外活動

NEC 勤務時代の約 40 年間海外出張は多かったが、居住経験は無かった。

61 才で退職し JICA シニア海外ボランティアとして、インドネシア、マーシャル諸島共和国、ブータンと 3 度の海外生活を経験、自己の全ての力での指導・貢献は良い経験でした。

②最近取り組んでいること

- ・ 80 歳代の 10 年間に「宗教と哲学」を勉強すべく準備中。
- ・ アマチュア無線の海外運用を過去約 30 ヶ所以上経験したが、太陽黒点活動期にある今もう 1~2 度何処かへ行きたいと、仲間を探している。
- ・ 週 2 回(毎回 2~3H の)卓球の練習をしていること。運動音痴だった自分には信じられないことです。

② 最近感動？したこと

地域社会に暮らしてみて、連れ合いを亡くしても元気なのは圧倒的に女性、女性は強い！と実感。

高齢で連れ合いを亡くすると急に認知症が進むのは、これは男性に多い！と。

④その他、現在の心境

地域社会に暮らして 10 数年、地域社会は難しいと痛感。住んで居る人達の意識も価値観も全くバラバラ、かつての会社組織のなかでの管理や手法がほとんど通用しない、しかしその経験があるからこそやれることもある。

認知機能が低下して行く方とのつきあいなど、新たな勉強です。

人生の旅路には色々な学びがある、と自らに言い聞かせている毎日です。(人によってはボヤキと言いますが・・・)

佐藤 徹

①今までの海外活動のご経験など

1973年 武蔵野電気通信研究所勤務、海外青年経済視察団に応募し、香港。マカオの商業。工業の視察

1975年 ジュネーブ国際発明展示会で情報収集、ロンドンで IBM 新型プリンター発表会を視察

1988年 NTT インターナショナルでシンガポールテレコム・アヤラジャ電話局と NTT との GNW 構築、シンガポールよりジャカルタ、クアラルンプールまでも延長も政治的な問題で断念。

韓国 ソウルと釜山との間に描画通信システムを設置工事

台湾 台北と台中に同じシステムの設置工事

香港、シドニー、ニューデリー、パキスタン、と続く。

佐藤 仁

(同姓同名が日本中にとっても多い名前ですが、よろしくお願ひします)

① 今までの海外活動のご経験など

私自身はまだ現役なので仕事の詳細な内容はここでは書くことができません。

今回、このような機会を頂いたので、仕事で行った国をあげてみました。

■欧州：オランダ、イギリス、フランス、ドイツ、スペイン、ポルトガル、ベルギー、ギリシャ、ポーランド、スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、アイルランド、チェコ、ハンガリー、スイス、イタリア、マルタ、モナコ、エストニア、リトアニア、スロベニア、ロシア、ベラルーシ、フィンランド、ブルガリア、ルーマニア

■北米：アメリカ、カナダ

■中南米：メキシコ、トリニダード・トバゴ、バルバドス、グラナダ

■アジア・中東：韓国、中国、香港、台湾、インド、インドネシア、ネパール、マレーシア、シンガポール、バングラディッシュ、タイ、ベトナム、ラオス、ミャンマー、カンボジア、イスラエル、エジプト、モロッコ、チュニジア、トルコ

ひよっとしたら抜けているかもしれませんが、印象に残っている国のベスト 5 (好きな国ではなく印象に残っている国です) は以下です。

1. マルタ：料理がとても美味しく、太陽が燦々輝く素敵なおとこでした。

2. バルバドス：東カリブの小さな島国ですが、海に囲まれて素敵なおとこです。いつか旅

行でまた行ってみたいです。

3. フィンランド：春でも吹雪で寒くてとても大変でした。精神的にも凄くきつくて今でも大変だった頃を思い出すと胃が痛みます。

4. イスラエル：歴史がある国でとても印象的です。早く平和が戻ったら今度は旅行で行きたいです。ただ物価が高くて生活がとにかく大変でした。

5. トリニダード・トバゴ：カリブの島国ですが、とある大きな国際会議で日本代表として議長を務めて緊張しましたので、どんな所かも覚えていないので、今度は遊びに行きたいです（笑）。

② 最近取り組んでいることなど(仕事、趣味、旅行、健康など)

私はまだ現役の社員なので、基本的に平日は朝から夕方まで仕事で勤務しています。

コロナ禍も収束したので、最近では会社への通勤も増えました。在宅勤務と併用していますが、個人的には会社の方が落ち着いて集中して仕事に取り組めるので、なるべく出勤しています。在宅勤務はコロナ禍の大変だった時期を思い出してしまうので。。

コロナ前までは会社に行くのも辛くて嫌だと思っていた日も多かったですが、コロナで会社に行けなくなってしまい、突然在宅勤務を強要されてから、在宅勤務にも慣れました。

在宅勤務で利便性が向上したところも多いですが、やはり人と人が対面で直接会って話をしたり、一緒にランチに行ったり、休憩したり、会社の後に飲みに行ったりしながらの無駄話や雑談といった「対面コミュニケーション」の重要性を改めて認識しています。私は昭和生まれの平成育ちなので、令和の今では古い人間なのかもしれません。

また大学で研究もしており、現役の学生と触れる機会も多いです。大学の授業ももうほぼ対面に戻りキャンパスも賑やかさを取り戻しています。コロナ禍では試行錯誤しながらリモート授業をしていました。たしかにリモート授業の良さもあります。例えば私もコロナ禍の頃はアメリカやイスラエルの大学の授業を夜中にオンラインで日本にしながら受講していました。こういうメリットはリモート授業にはあります。しかし、やはり授業も対面の方が教員としては学生の様子や反応をリアルに見ながら進められるので対面の方がやりやすいです。

③ 最近笑ったこと、うれしかったこと、感動したことなど

毎日、美味しい食事ができるだけ嬉しくて幸せです！仕事や生活が辛くて大変な時は食欲もなく、食事も喉を通らないので。。

④ ICT 海外ボランティア会(ICTOV)へのご意見など

⑤ その他(皆様への呼びかけ、メッセージなど)

皆様が培ってきた海外経験や日本の社会、企業への貢献は、日本にとってもとても重要なものだと思います。是非、様々な経験やノウハウ、知恵などを後世の日本人に伝えてほしいと思っています。

最近では日本でも外国人が増えて、彼らと共生しないといけないシーンも多くなりました。文化や生活習慣の違いから、多くの地域で様々な衝突やいざこざがあると報じられていますし、実際に見たり聞いたりしています。美しく素敵な歴史ある日本に外国人が住むのはとても大変なことだと思いますし、日本人は日本人としてこの国を守っていくという矜持を持たないといけないと思います。真面目でしっかりした外国人だけでなく、美しい我が国の伝統と文化を汚すような行為をする外国人も残念ながらいます。日本での生活に馴染めずに苦勞している外国人も多いです。私自身、欧州には頻繁に行きますが、欧州諸国では「ここは中東？アフリカ？」と思うくらいに移民が年々多くなり驚いています。異文化、異教徒の増加による彼らとの共生は容易ではありません。様々

な衝突、事件、事故が多く、多くの国で起きています。何年後かの日本をこのようにしてはいけなないと欧州に行くたびに危機感を覚えます。

素晴らしい日本人である皆さまの海外での豊富な生活や仕事の経験、そこから得た知恵や知識は現在のように外国人が増えて様々な衝突やトラブルが起きそうな日本において、あらゆる面で役立つと思っています。是非、美しい日本の伝統、文化、生活様式、正しい綺麗な日本語を後世の日本人のためにしっかりと伝えていければと思っています。皆様の経験や知恵は日本の宝です！

ウェブサロンの話、あれこれ

第 22 回 ICT 海外情報ウェブサロン模様

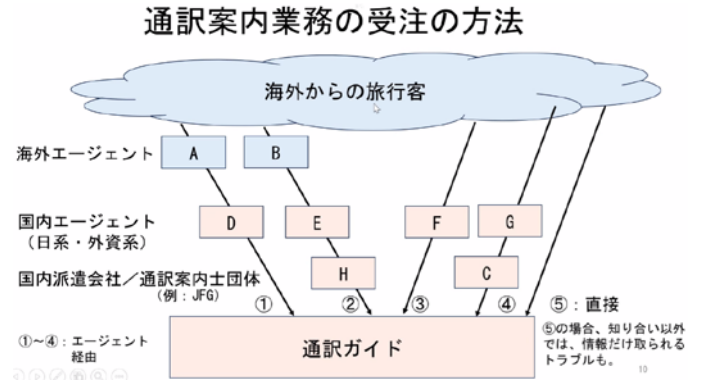
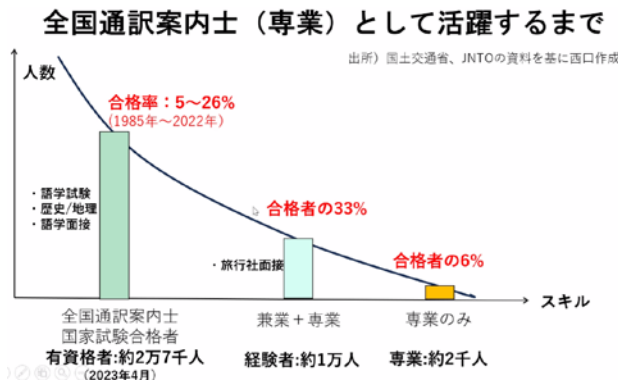
事務局

第 22 回 ICT 海外情報ウェブサロンが 2024 年 2 月 22 日(木)15 時～17 時、ウェブ会議室において開催された。当初は、コロナ禍で急遽中止していた「リアル会場＋ウェブ会議室」を 4 年ぶりに復活予定だったが、会場参加者が少ないため、ウェブ会議室のみの開催に変更した。世の中がウェブ会議に慣れてしまったようで、喜ばしいことかもしれないが、何か残念な思いも残った。講師は急遽中止した際をお願いしていた西口美津子先生(千葉工業大学非常勤講師、全国通訳案内士)に再度お願いしたところ快諾を得、また演題は最新話題の「定年後のキャリア形成に生成 AI は役立つか？～通訳ガイドを例に～」であった。定年後のキャリアを充実させる一つの方策として、ChatGPT のような生成 AI の活用について通訳ガイドを例に考察したものであり、活発な議論で時間を忘れて、楽しく有意義なウェブサロンとなった。講師を引き受けていただいた西口先生には深く感謝の意を表します。

主な話題を以下に示す。

- ・第 1 次 AI ブームは学生としてプログラミングを学んだ。第 2 次ブームでは日立製作所での電子交換機ソフトウェア開発や米 DEC 社日本法人で社内用ソフト開発、MicroPro 社と(株)十印でのマニュアル等の日本語化・英語化などに携わり、SRI(スタンフォード研究所)東アジア本部や Nortel 社に勤務した。AI や Expert System の存在を知ったのもこの頃であった。第 3 次ブームでは、(独)雇用・能力開発機構に勤務、2006 年に全国通訳案内士(英語)免許を取得した。高専(福島、沼津)時代の英語授業に AKA 社の MUSIO(AI Robot)を導入した。観光庁の研修で NICT の VoiceTra を知り、千葉工業大学の英語授業で使用した。現在は第 4 次 AI ブームが到来しているとも思われ、ChatGPT について同大学の授業でも紹介している。
- ・定年後は人生で思い残したことをやる時期かもしれないと思っている。文学への思いが強く、伊豆文学賞、シナリオセンター、歌会始などへの応募をしているが、厳しい競争で未だ世に出ていない。しかし、これからも挑戦したいと考えている。一方、スキーは競争がなく、好きで続けている。
- ・通訳ガイドは 2006 年に免許取得したが、2022 年まではペーパーガイドであった。その後、団体をバスで 2 日間案内したり、個人案内などしてきたが、適度な緊張でストレスなく継続できれば理想である。

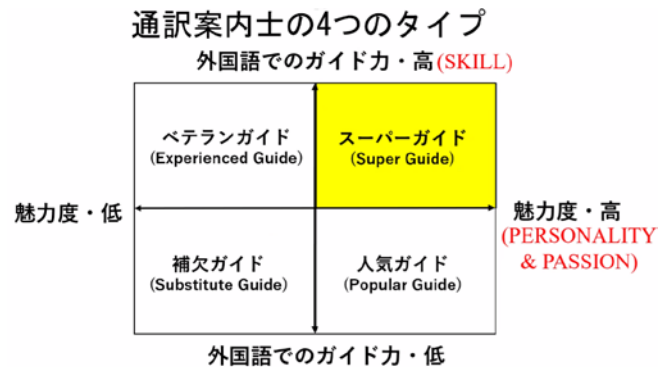
- ・通訳ガイドには全国通訳案内士、地域通訳案内士、資格なし者がいる。全国通訳案内士は国家試験合格後、都道府県で登録し、登録した都道府県で報酬を得て通訳案内している。
- ・日本には日本固有の技芸があり、放っておけばなくなってしまう恐れがあるものがある。西洋人などが知らないものや、基本は中国から学んだものでも、中国風ではなく、日本固有のスタイルになっているものがある(福澤諭吉著「帝室論」)。
- ・全国通訳案内士は合格率が5~26%と低く、活躍できる人は非常に少ない(下図左)。また、通訳案内業務の受注方法は多数あるが、エージェン特経由が一般的である(下図右)。



- ・生成 AI とは「さまざまなコンテンツを生成できる AI のこと。従来の AI は決められた行為の自動化が目的であるのに対し、生成 AI はデータのパターンや関係を学習し、新しいコンテンツを生成することを目的としている」(野村総研ほか多数)。最近のニュースとして、ハリウッドのスト、JTB の導入、芥川賞での ChatGPT 部分 5% などの話題がある。
- ・ハロー通訳アカデミーでは、全国通訳案内士等は ChatGPT を十分使い、ソクラテス式問答法による質問をするよう指導している。①明確化、②初期設定、③仮定、④エビデンス、⑤ソース・期限、⑥影響・結果、⑦視点、について ChatGPT に質問するものだ。
- ・2 人のベテラン通訳案内士のマトリックス履歴書を作成してみた。2 人とも着実な履歴を歩み、高齢(一人は 94 歳、下図左)であっても未だ現役である。

マトリックス履歴書の例(〇氏)

0~17歳	20~30歳	31歳~33歳	34歳~39歳	39歳~48歳	49~76歳	77~94歳
大進だが、前職を辞め、中学を卒業。英語への興味。	伊丹空港のアメリカ空軍駐屯地で働く。	アメリカで運転手として働く。	「Joe Okada Travel Service」を設立、成功。	同社の「Horse Visit Tour」の仕事を継続。	世界旅行を頻繁にする。	通訳案内士団体(JFG)に90歳まで所属。(バイオニア精神)
英語を使った仕事の追求。	通訳案内士国家試験合格。	藤田トラベルサービスの専属ガイド。		通訳ガイドの仕事を継続。	「Samurai Nippon Show」	「Cool Kyoto Walking Tour」を始める。(ガイド業)
	本の出版: 「Best Selling Japan Guide Book」				「Best Selling Japan Guide Book」が12万部に。	ジョーク集を出す(通訳ガイド指南書)
		エンターテインメントの追求		「Samurai Nippon Show」(日本刀によるリング切り)を始める。	TVへの露出。	海外のフェスティバルに参加。(ユニークなツアー)
出所)ジョー岡田、世界も笑う日本人のヒューモアとジョーク全集、2021年				林檎切りのショーで2人の男子がキネスブックに載る。	JFG等でセミナー。	(後進指導)



- ・通訳案内士はスキルと熱意・魅力で分類すると、スーパーガイド、人気ガイド、ベテランガイド、補欠ガイドの4つのタイプに分類できる(上図右)。補欠ガイドはスキルを高め、魅力を磨く必要がある。
- ・ChatGPT に、「ガイドとして浅草を案内するのに気をつけること」「日本の大仏ベスト10」「鎌倉の小町通りの食事場所」などを質問してみた。日本語と英語での回答を得ることができ、通訳ガイドとして ChatGPT は有益なものである。

- ・生成 AI の通訳ガイドへの活用の可能性と課題として、①外国人観光客を想定した「壁打ち」効果が期待できる、②主要な観光地について一般的なガイドング情報を日英 2 カ国語で得られる、③最新情報へのアクセスによりベテランガイドの引退時期を遅らせる、④補欠ガイドが予習できる、ことが上げられる。これらのほか、今後も様々な活用法が提案されることが期待できる。
- ・現在の日本人は、日本の最も繁栄した時代を生きてきたが、これは数千年の歴史の中でたった一度だけ世界で認知、評価されたものであり、世界の人々の日本に対する認識とはズレが大きくなってきている(前崎信也著「アートがわかると世の中が見えてくる」)。

質問・意見は非常に活発で絶え間なく続いた。以下、質問の一部を抜粋するが、回答は参加者の特権として省略する。

- ・全国通訳案内士の試験は難関と聞いているが、どのように対応すれば良いか。
- ・高専の英語力はどうか。
- ・ベテランガイドに向けて、どのジャンルを目指すか。
- ・JICA などが KOSEN ブランドを海外展開しているが、その関係の仕事はないか。
- ・通訳ガイドをしていて感動したことはあるか。
- ・顧客である外国人の国・歴史などを事前に理解してガイドしているか。
- ・外国人観光客は日本文化のどのような点に感動しているか。
- ・生成 AI は業界別に、例えば観光業界専用で発展することはできるか。
- ・ガイドを 3 ヶ月したら止められない職業であると聞いたことがあるが如何か。
- ・文学を今後も取り組むとのことだが、動機は何か。
- ・イタリアで日本語のガイドブックを見ながらガイドの話を聞いていたら叱られたが、外国では一般的か。



このように、真にウェブサロンの雰囲気であり、今後とも皆様のご参加をお願いいたします。

最後に、本間様から、2月15日に逝去された加納貞彦先生への追悼の言葉があった。加納先生は当会イベントにも多数回ご出席されたことがあり、今回の参加者からもそれぞれの思い出などが紹介された。全員で黙祷を捧げ、ご冥福を祈った。合掌。

◆ICT 海外情報ウェブサロン開催方法等アンケートのお願い

当会ウェブサロンの今後の改善に向けて参考にするため、下記サイトのアンケートにご記入いただければ幸いです。お手数をおかけしますが、何卒、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

<https://forms.gle/bBSYGefFLPPVSEX97>



編集後記(編集者から一言)

皆様のご協力をいただき、おかげさまで会報第112号を発行することができました。今回は当会の吉田顧問(東京大学名誉教授)から「対話型生成AIとセキュリティ」の特別寄稿をいただくとともに、岩槻日記、海外グラフィティ、俳柳紀行のご寄稿継続をいただき、誠にありがとうございます。

また、第22回ICT海外情報ウェブサロンは2024年2月22日(木)15時～17時、ウェブ会議室において開催されました。講師は西口美津子先生(千葉工業大学非常勤講師、全国通訳案内士)、演題は「定年後のキャリア形成に生成AIは役立つか?～通訳ガイドを例に～」であり、楽しく有意義で活発な議論がありました。講師を引き受けていただいた西口先生には深く感謝の意を表します。

会報第108号から当会会報配信先の皆様によるメッセージリレーを開始いたしました。今回も多数のメッセージをいただき、誠にありがとうございます。今後も、「私の海外とのかかわり、など」につきまして別途、五十音順にメッセージのご依頼をいたしますので、ご多忙のこととは存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

これまでのご協力に改めて心より感謝するとともに、当会及び当会報へのご感想、ご意見などございましたら、下記サイトにご記入いただければ幸いです。皆様からのさらなる会報へのご寄稿とICT海外情報ウェブサロンへのご参加をお願いするとともに、今後とも当会へのご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

<https://ictov.jimdo.com/コメント/>

発行： ICT 海外ボランティア会(ICTOV)
会報担当： 空席のため募集中(編集長兼広報部長)、山川 博久(事務局長)
ホームページ担当： 山崎 義行(報道部長)、安達 信男(幹事)